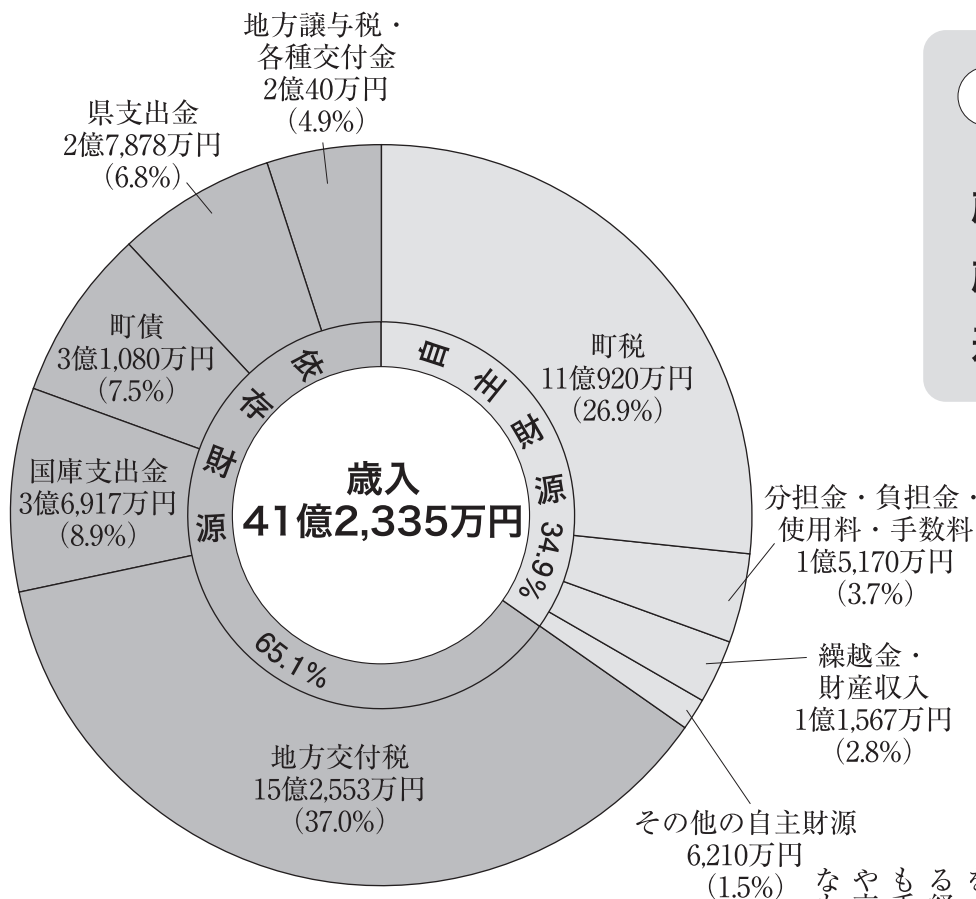


平成23年度 決算報告

決算の特徴

- ◆財政の健全性がより高まりました（一般会計）
- ◆社会保障経費が増加する傾向にあります（各特別会計）



一般会計決算額

歳入 41億2,335万円
歳出 39億6,916万円
差引 1億5,419万円

歳入

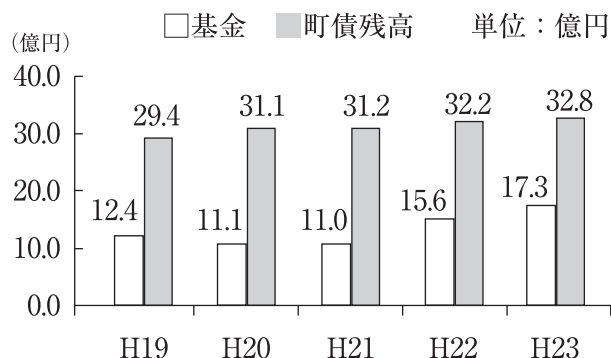
歳入は大きく自主財源と依存財源に分けられます。自主財源では町税が、依存財源では地方交付税が大きな割合を占め歳入の柱となっています。町税のうち町民税は、法人分が増収傾向にあるものの個人分はまだ減収傾向にあります。また、固定資産税は前年度に

歳出

引き続き収入未済額が減少しています。地方交付税は財源不足の内容に応じて増減しますが、平成23年度は町債の償還金について措置される分と特別交付税が大きく増えたことなどにより、全体でも増加しました。

歳出のなかで最も大きな割合を占めているのは、福祉に関する経費である民生費です。子ども手当や保育所の経費、障害者や高齢者の生活支援の経費が主なもの。また、国民健康保

基金と町債残高



基金は町の貯金、町債は町の借金に相当します。町債残高は6千万円、基金残高は1億7千万円それぞれ増加しました。

除や介護保険、後期高齢者医療保険の各特別会計への繰出金は、1億6,146万円となりました。次いで大きな割合を占める教育費は、皆野中学校体育館の耐震改修、小中学校の空調設備設置などにより前年度に比べて約15%増加しました。町の借金の返済金である公債費は、前年度から2,348万円(86%)増加しました。これは、皆野中学校校舎の建て替えの際借り入れた町債の元金償還が始まったことによります。諸支出金のほとんどは、将来の公債費負担軽減のため使用する減債基金への積立金です。